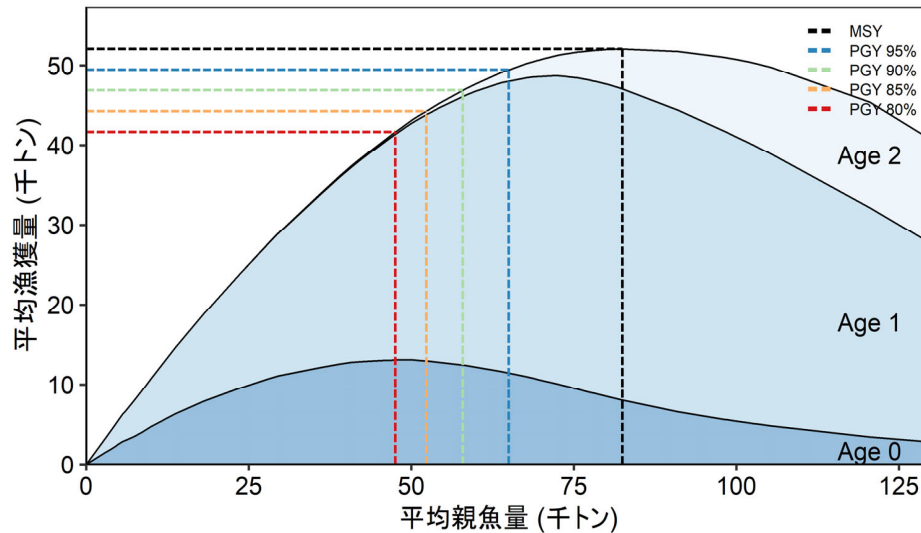
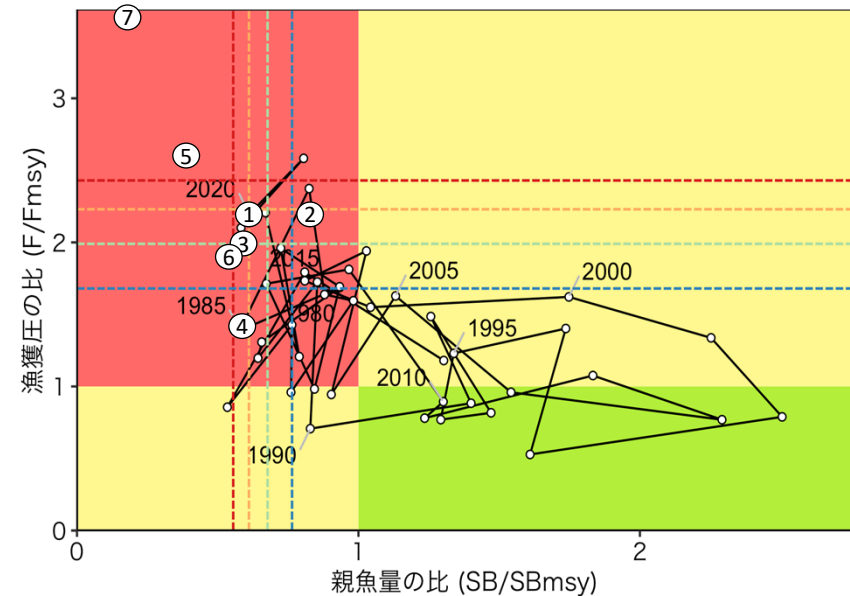
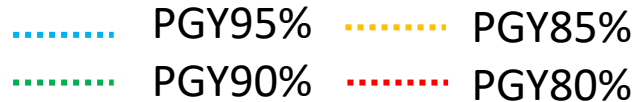


カタクチイワシ（対馬暖流系群） 参考資料



MSYとPGYの関係



神戸プロット(神戸チャート)

- ※ プロット（数字なし白丸）の位置は、ベースケース（簡易版のシナリオ1）の資源評価結果を示す。
- ※ ①～⑦は簡易版のシナリオ1～7における2020年の親魚量と漁獲圧の位置を示す。

水産庁から、PGY（*）の考え方に基づく親魚量等の基準を反映した資料作成の検討依頼が出されていた。カタクチイワシに関しては、小型魚（**）が有用資源として漁獲・加工されてきた特別な利用実態がある。長崎県から、令和3年9月6日に開催されたカタクチイワシの研究機関会議（県水産試験研究機関、外部有識者及び水産研究・教育機構が参加）において、同様の観点からの意見があった。以上のことから、カタクチイワシ対馬暖流系群の研究機関会議報告書簡易版の参考資料として掲載するもの。

（*）海外の文献で提示された考え方でPGYはPretty Good Yieldの略。PGYはMSYの80%以上とされ、例えば、PGY95%はMSYの95%に当たる漁獲量を達成するときの親魚量とそれを達成するための漁獲量や漁獲圧。

（**）明確な基準はないが、例えば0歳から1歳を想定。